

2026年6月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社エンビプロ・ホールディングス
(証券コード : 5698)

2026年2月12日

目次

- 1. 2026年6月期 第2四半期決算概要**
2. 2026年6月期 見通し
3. 今後の主な取り組み
4. 参考資料

【業績のポイント】

- 取引形態の一部変更に伴う収益認識基準の適用により、売上高が**減少**
- **構造改革の成果の表面化や主要金属価格の上昇**により全セグメントで**増益**
- 選別技術の深化および回収・販売強化により、収益の改善が進展

(単位：百万円)

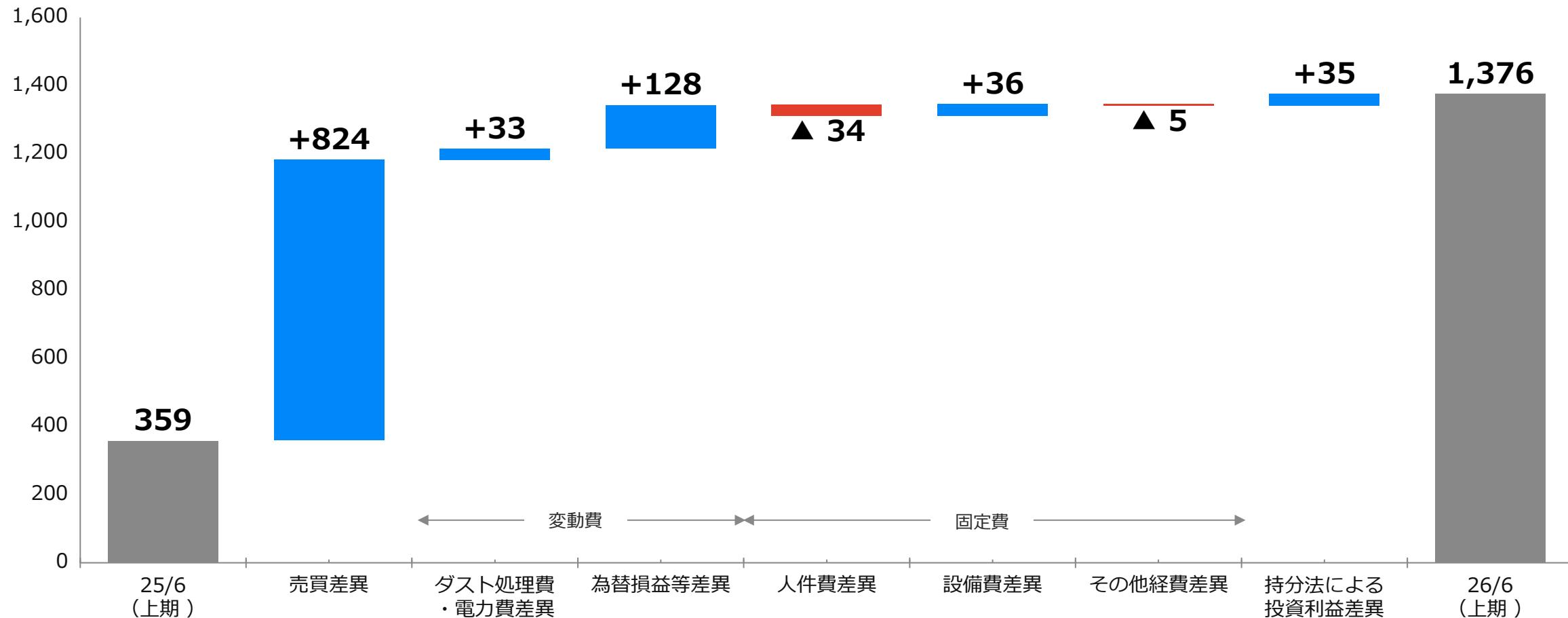
	2025年6月期 上期	2026年6月期 上期			2026年6月期	
	実績	実績	前年同期比		当初予想	進捗率
			増減額	増減率		
取扱量 (千 t)	293	244	▲48	▲16.5%	530	46.2%
売上高	24,783	21,528	▲3,255	▲13.1%	43,000	50.1%
営業利益	380	1,245	865	227.5%	1,300	95.8%
経常利益	359	1,376	1,016	283.1%	1,700	80.9%
純利益*	326	933	607	186.3%	1,300	71.8%
限界利益*	4,618	5,605	986	21.4%	10,700	52.4%
EBITDA*	1,063	1,940	876	82.4%	2,800	69.3%

*純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益 *限界利益=売上高 - 変動費 *EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却

決算概要▶連結経常利益差異分析（前年同期比）

- **売買差異** : 構造改革の成果の表面化や主要金属価格の上昇等により利幅が拡大
- **為替損益等差異** : 適切な為替リスクの管理により為替差損が減少
- **人件費差異** : 定期昇給及びベースアップによる影響

(単位：百万円)



決算概要▶セグメント別業績

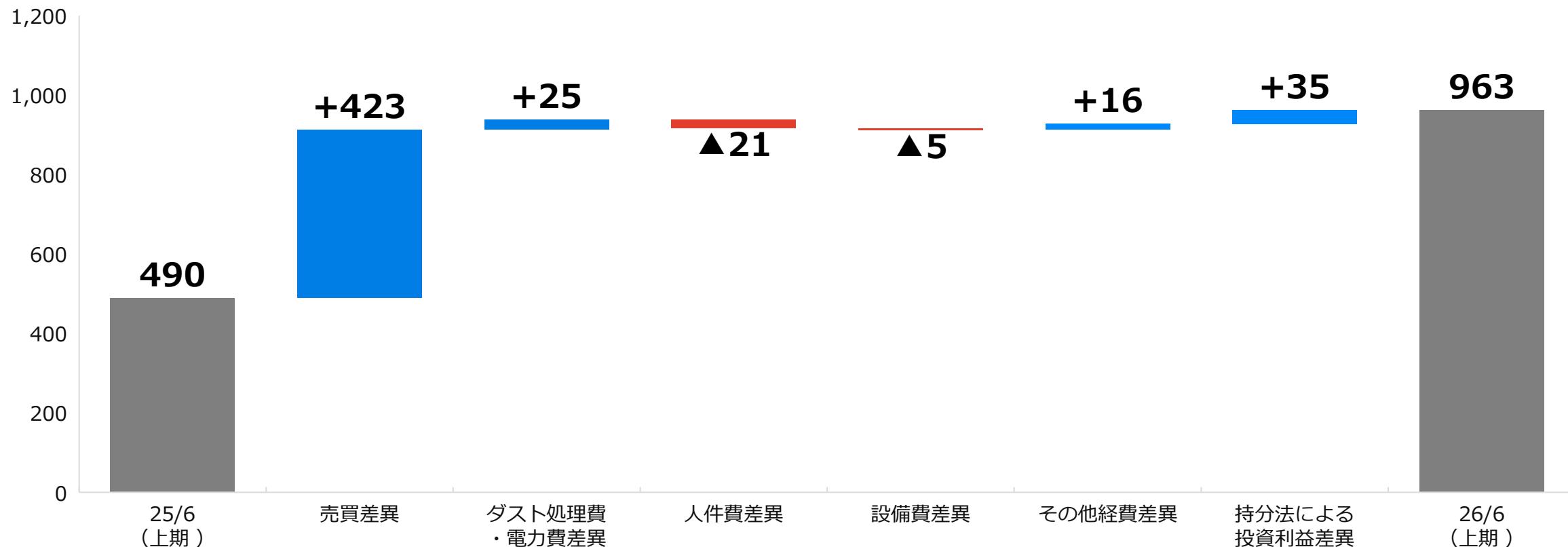
(単位：百万円)

	2025年6月期 上期	2026年6月期 上期	2026年6月期	
		実績	実績	当初予想
資源循環事業	取扱量（千t）	116	119	-
	売上高	10,225	11,001	21,700
	セグメント利益	490	963	1,680
グローバル トレーディング事業	取扱量（千t）	217	170	-
	売上高	16,086	12,169	24,500
	セグメント利益	16	327	500
リチウムイオン電池 リサイクル事業	売上高	812	1,179	1,300
	セグメント利益	94	289	50
その他	売上高	236	241	500
	セグメント利益	32	36	70

資源循環事業

- 金属資源循環事業では主要金属価格が上昇する中、選別技術を深化させ高付加価値品（金銀津等）の回収・販売を強化したことにより収益の改善が進展
- 大手メーカー向けの営業強化により産業廃棄物の入荷が堅調に推移
- ポリマー資源循環事業は組織再編等の構造改革の成果が表れ、取引条件の適正化が進んだことに加えて受注も好調に推移

(単位：百万円)



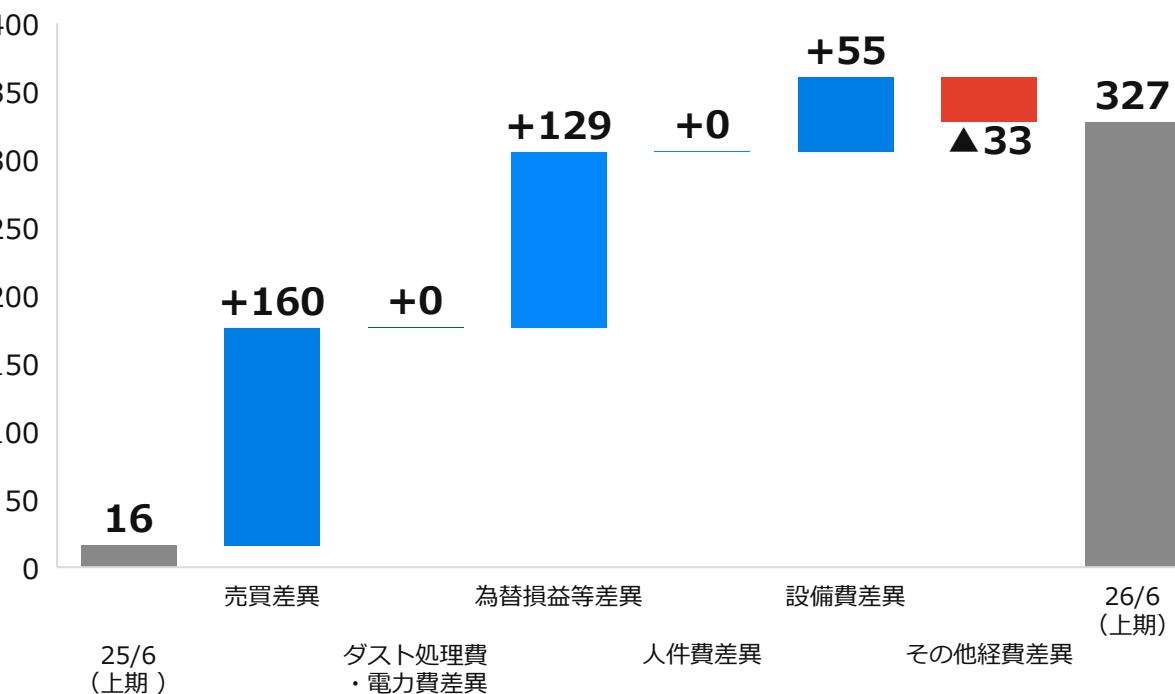
グローバルトレーディング事業

- 金属原料のトレーディング事業は構造改革の成果が徐々に表れる中、新たな販路開拓により収益性が回復し増益
- 物流代行サービス事業は需給バランスを見極め、適正価格でサービスを提供したことにより堅調に推移

リチウムイオン電池リサイクル事業

- 電池材料に用いられるリチウム及びコバルト相場が上昇基調で推移
- 加工受託案件を中心に取扱量を増加させたことにより増収増益

(単位：百万円)



その他

〈障がい福祉サービス事業〉

- 登録利用者の減少等により減収減益

〈サステナビリティコンサルティング事業〉

- 受注が増加したことにより増収増益

2025年6月末

2025年12月末

(単位：百万円)

流動資産 15,874	負債 13,989 有利子負債 7,735	流動資産 16,613 現金及び預金 6,966	負債 14,557 有利子負債 7,343
固定資産 15,424 有形固定資産 10,975	純資產 17,309 自己資本 16,898 自己株式 ▲788	固定資產 15,643 有形固定資產 10,937	純資產 17,699 自己資本 17,320 自己株式 ▲872
資産合計 31,299			資産合計 32,256

決算概要▶連結キャッシュ・フロー計算書概要



(単位：百万円)

	2025年6月期 上期	2025年6月期 通期	2026年6月期 上期	TOPICS
営業活動によるキャッシュ・フロー	1	3,469	1,395	(収入) 税金等調整前中間純利益1,374百万円、減価償却費693百万円 仕入債務の増減額655百万円 (支出) 棚卸資産の増減額678百万円、持分法による投資利益232百万円 法人税等の支払額200百万円、未払金の増減額179百万円 売上債権の増減額122百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲637	▲1,328	▲310	(支出) 有形固定資産の取得256百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	372	▲2,075	▲1,148	(支出) 長期借入金の返済488百万円、配当金の支払額429百万円 自己株式の取得172百万円
現金及び現金同等物に係る換算差額	29	26	21	
現金及び現金同等物の増減額	▲234	92	▲41	
現金及び現金同等物の期首残高	6,771	6,771	6,864	
現金及び現金同等物の期末残高	6,536	6,864	6,823	

目次

- 1. 2026年6月期 第2四半期決算概要**
- 2. 2026年6月期 見通し**
- 3. 今後の主な取り組み**
- 4. 参考資料**

見通し▶2026年6月期 連結業績



上期の堅調な業績進歩を考慮し業績予想を上方修正

(単位：百万円)

	2025年6月期	2026年6月期			2026年6月期		
	実績	修正予想 (2026/2/12)	前期比		前回予想 (2025/8/20)	前回予想比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
取扱量 (千t)	611	500	▲111	▲18.2%	530	▲30	▲5.7%
売上高	49,090	43,000	▲6,090	▲12.4%	43,000	-	-
営業利益	972	2,300	1,327	136.5%	1,300	1,000	76.9%
経常利益	1,216	2,600	1,383	113.8%	1,700	900	52.9%
当期純利益*	1,175	1,800	624	53.1%	1,300	500	38.5%
限界利益*	9,877	-	-	-	10,700	-	-
EBITDA*	2,345	-	-	-	2,800	-	-
ROE	7.0%	9.9%	2.9%	-	7.4%	2.5%	-

*当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

*限界利益=売上高 - 変動費

*EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却

見通し▶2026年6月期 連結業績

(単位：百万円)

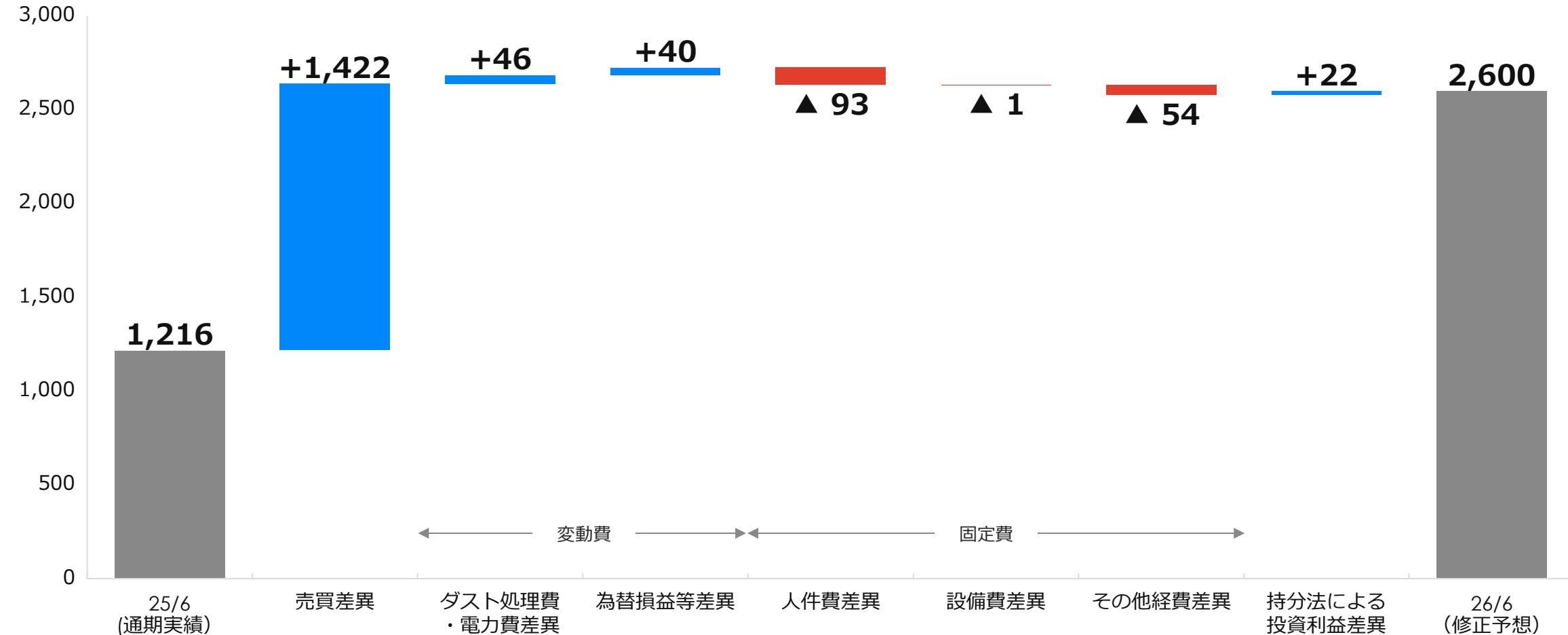
売上高	2025年6月期		2026年6月期		2026年6月期		
	実績	修正予想 (2026/2/12)	構成比	前回予想 (2025/8/20)	前回予想比	構成比	
					増減額	増減率	
連結	49,090	43,000	100.0%	43,000	-	-	100.0%
資源循環事業	21,015	22,500	45.9%	21,700	800	3.7%	45.2%
グローバルトレーディング事業	31,590	24,000	48.9%	24,500	▲500	▲2.0%	51.0%
リチウムイオン電池リサイクル事業	1,693	2,100	4.3%	1,300	800	61.5%	2.7%
その他	491	450	0.9%	500	▲50	▲10.0%	1.0%
調整額	▲5,700	▲6,050	-	▲5,000	▲1,050	-	-

セグメント利益	2025年6月期		2026年6月期		2026年6月期		
	実績	修正予想 (2026/2/12)	構成比	前回予想 (2025/8/20)	前回予想比	構成比	
					増減額	増減率	
連結	1,216	2,600	100.0%	1,700	900	52.9%	100.0%
資源循環事業	1,159	1,900	60.8%	1,680	220	13.1%	73.0%
グローバルトレーディング事業	269	600	19.2%	500	100	20.0%	21.7%
リチウムイオン電池リサイクル事業	223	600	19.2%	50	550	1,100.0%	2.2%
その他	95	25	0.8%	70	▲45	▲64.3%	3.0%
調整額	▲531	▲525	-	▲600	75	-	-

見通し▶連結経常利益差異分析（前期比）

- **売買差異**：構造改革の成果の表面化および主要金属価格の上昇による利幅の拡大
- **人件費差異**：定期昇給及びベースアップなどの待遇改善を継続し増加

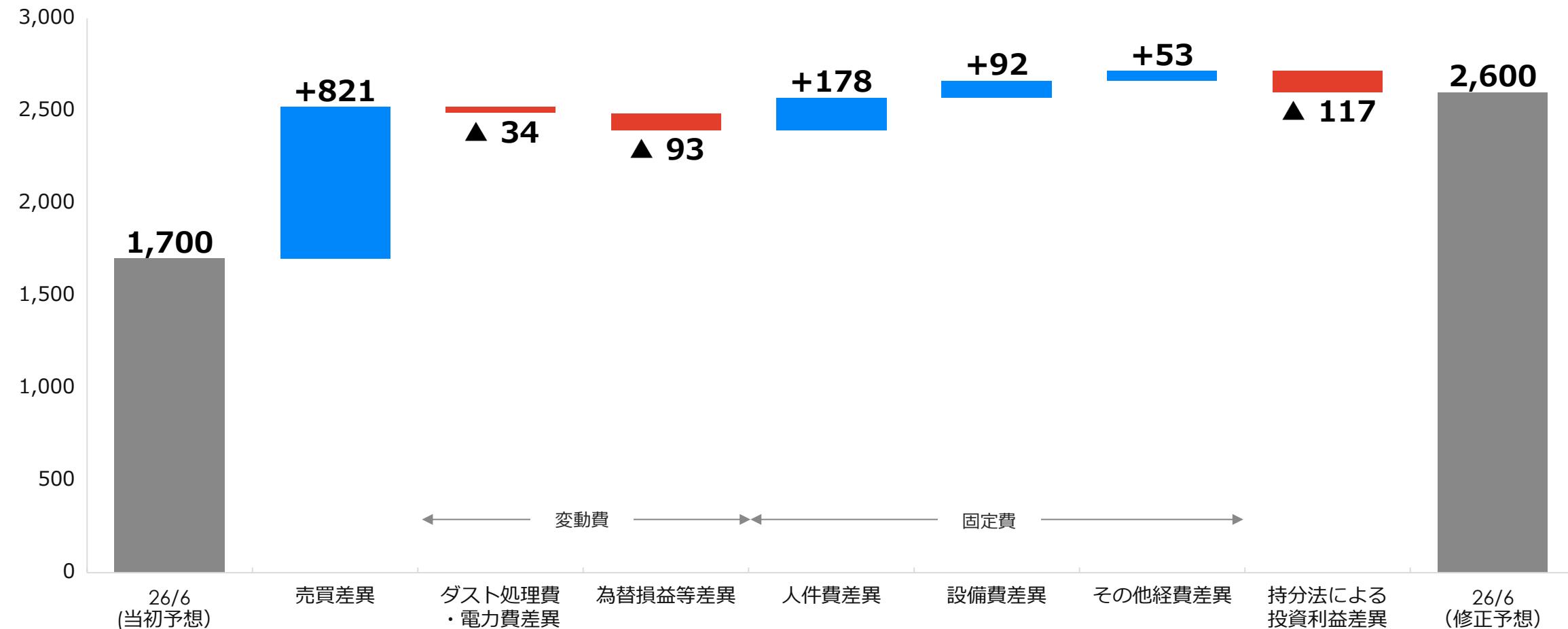
(単位：百万円)



見通し▶連結経常利益差異分析（当初予想比）

- **売買差異**：構造改革の成果の表面化および主要金属価格の上昇による利幅の拡大
- **人件費差異**：採用計画を柔軟に見直した結果等により減少

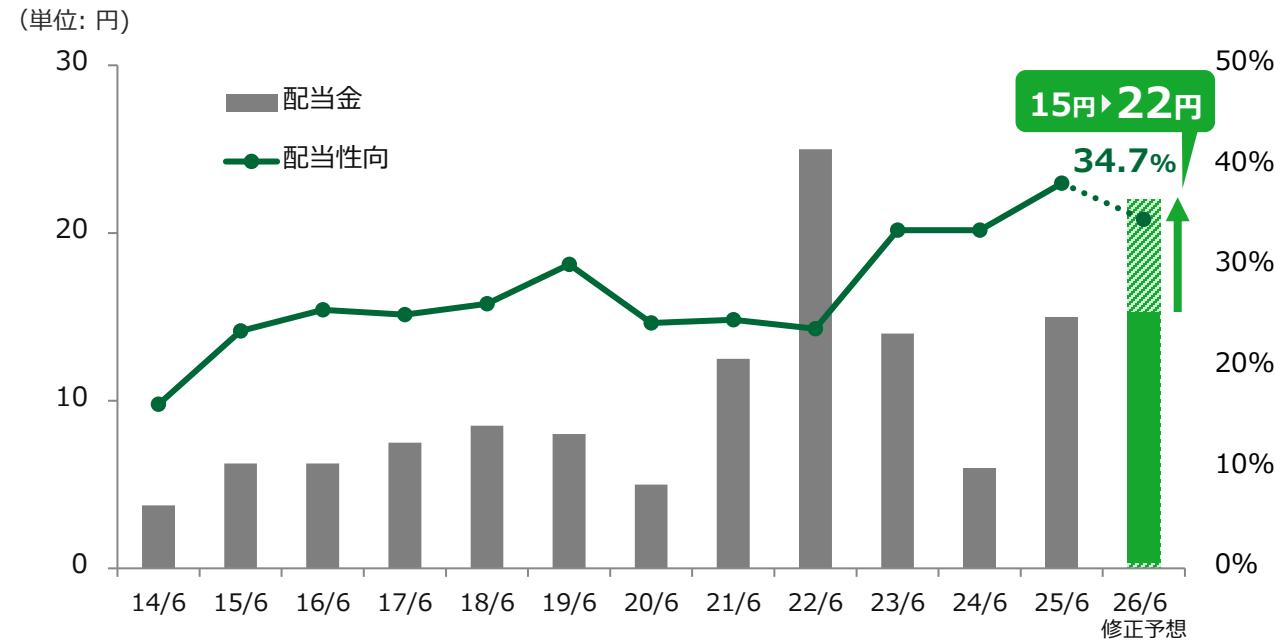
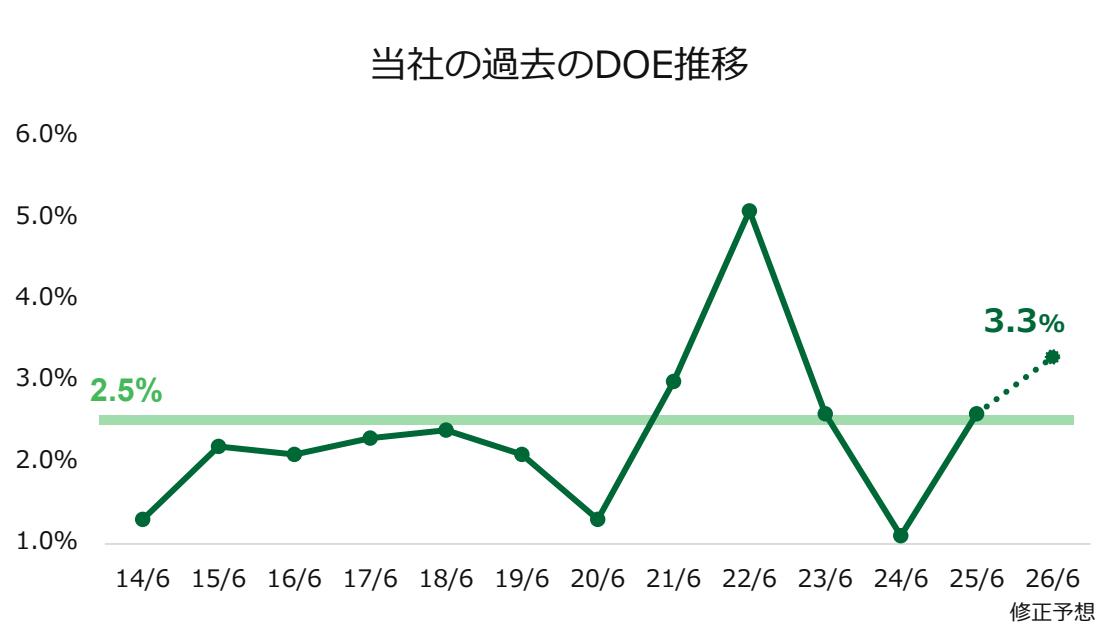
(単位：百万円)



配当基本方針

■ 配当基本方針：株主資本配当率（DOE）2.5%を下限

人件費などの上昇や積極的な設備投資を行う中で短期的に利益が変動する局面においても、安定的かつ持続的な株主還元を実現



(単位: 円)

	2014/6	2015/6	2016/6	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6	2023/6	2024/6	2025/6	2026/6 (当初予想)	2026/6 (修正予想)
株価(6月末)	140	178	139	174	369	300	292	614	794	552	479	483	-	-
1株配当金	3.75	6.25	6.25	7.5	8.5	8	5	12.5	25	14	6	15	15	22
配当性向	16.3%	23.6%	25.7%	25.2%	26.3%	30.2%	24.4%	24.7%	23.8%	33.6%	33.6%	38.3%	32.8%	34.7%
総還元性向	16.3%	23.6%	25.7%	25.2%	26.3%	64.5%	24.4%	24.7%	23.8%	33.6%	33.6%	103.7%	46.1%	44.5%

※2019年6月期に273百万円、2025年6月期に788百万円、2026年6月期に172百万円の自己株式の取得を実施

目次

1. 2026年6月期 第2四半期決算概要
2. 2026年6月期 見通し
3. 今後の主な取り組み
4. 参考資料

2025年9月18日 東証スタンダード市場へ市場区分を変更

単年度の利益を着実に積み上げ、
将来的なプライム市場への復帰を目指して強固な基盤を再構築



2025年9月25日 代表取締役社長変更

新社長の方針「変わる」

人材戦略

社員一人ひとりが主体的に変化を起こす体制へ移行
→創発的能力を備えた自律した個人の規律ある集団へ



取締役会長 佐野富和 代表取締役社長 佐野文勝

事業推進

- 重要戦略事業への注力（金銀滓事業、リチウムイオン電池リサイクル事業、ポリマーCE事業）
- 不採算事業の構造改革（資源循環事業、グローバルトレーディング事業）
- 既存事業の深化・深堀（選別技術、燃料事業、廃棄物BPO）

CORPORATE IDENTITY 企業理念

「創業企業」「循環企業」「求道企業」

エンビプロ・ホールディングスが
最も大切にする価値観でありDNA 時間軸無し



持続可能社会 実現の一翼を担う

2050年までの期限付き

エンビプロ・ホールディングスが
現在世の中に存在する意義であり、
一定の時間軸での目的・志

MISSION ミッション



サーキュラー
エコノミーを
リードする

CONCEPT

戦略コンセプト

IMAGE

組織イメージ

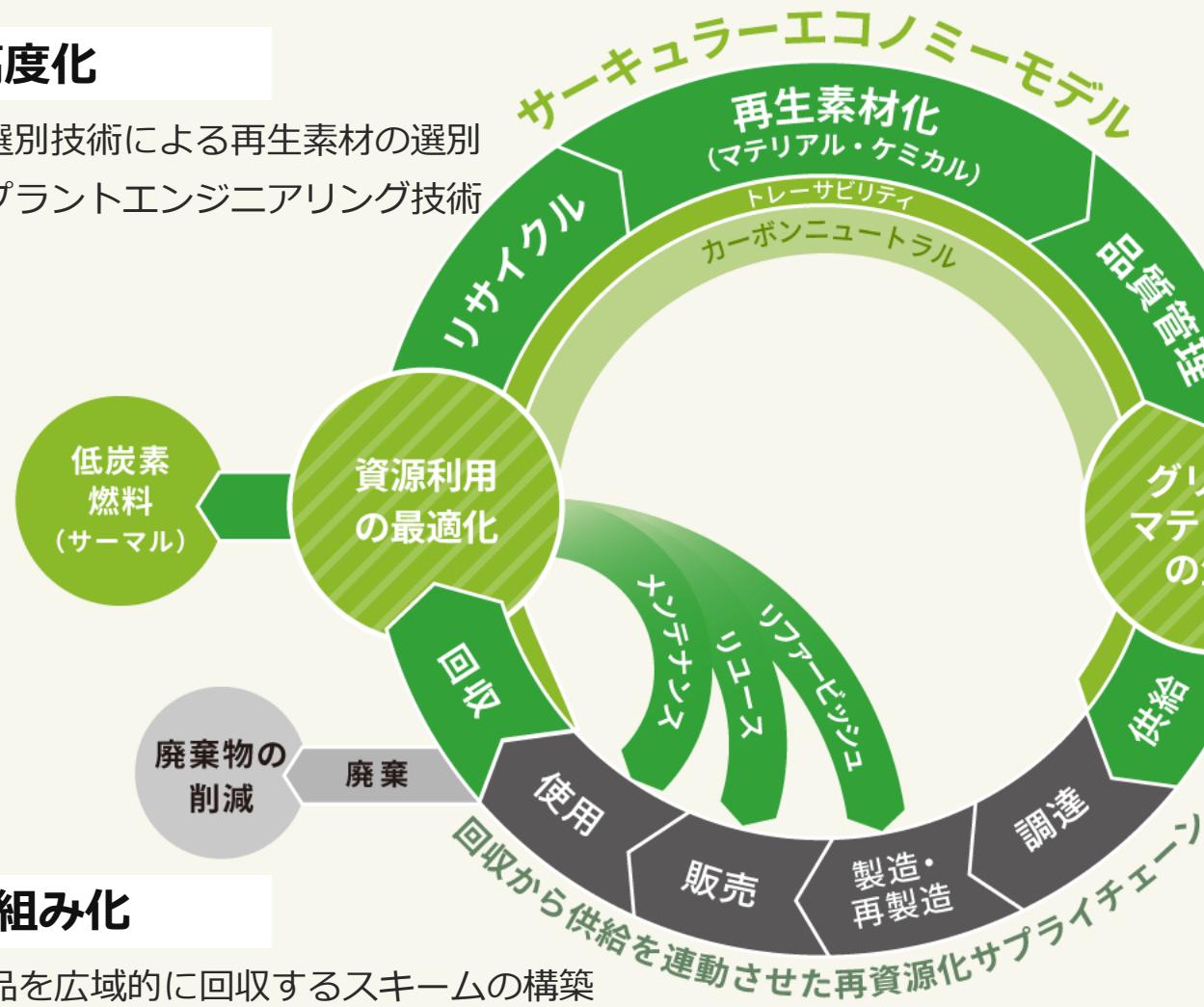
創発的能力を
備えた自律した
個人の規律ある集団



「低炭素プロセスによる地上資源の再生素材メーカー」に変革

技術の高度化

- 高度物理選別技術による再生素材の選別
- 専門的なプラントエンジニアリング技術

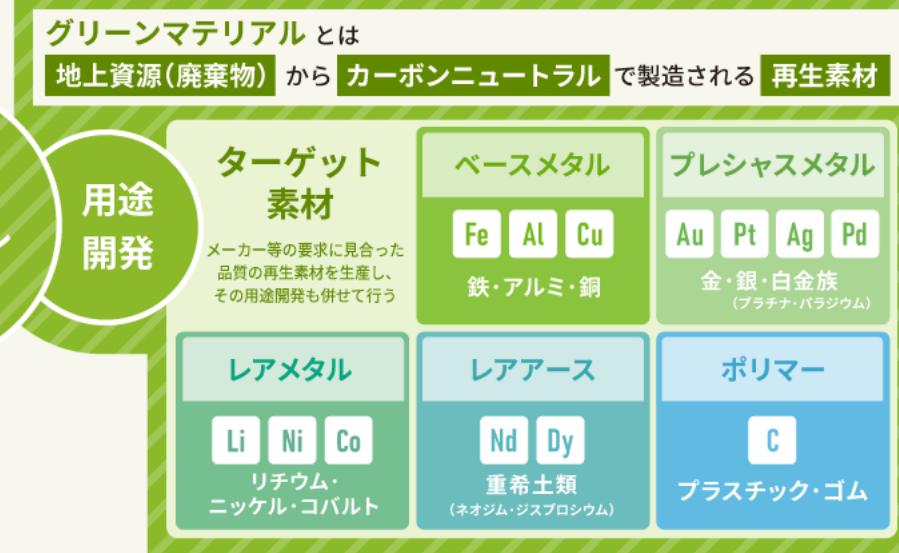


回収の仕組み化

- 使用済製品を広域的に回収するスキームの構築

再生素材の付加価値化

- メーカー仕様に応じた再生素材の品質管理
- 再生素材の用途開発・製品化技術



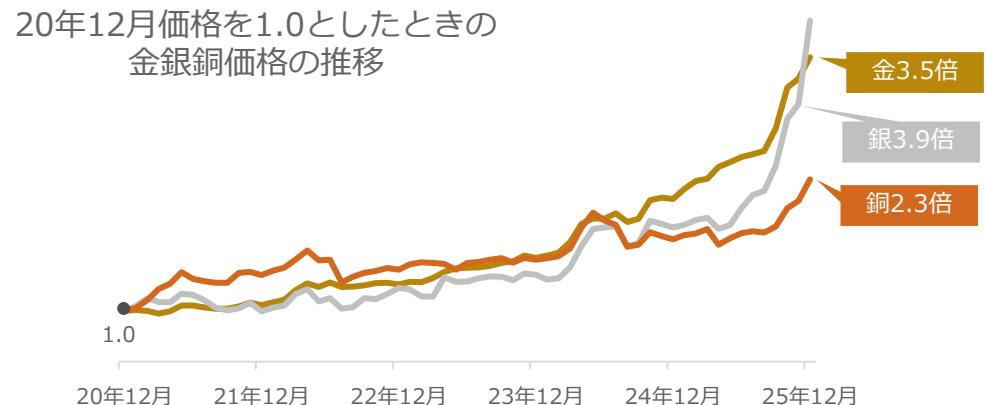
安定供給化

- 素材メーカーとの連携・提携等による再生素材の供給

都市鉱山に含まれる未利用資源を社会に戻すことでCEをリードする

施策の方向性

- 従前から手掛けていた焼却残渣からの金銀滓回収の拡大
 - 貴金属・非鉄金属価格の上昇に対応した、生産フローの最適化
 - 貴金属を含む未利用資源の対象拡大・集荷強化



焼却残渣からの回収拡大

進行中の施策

- ・自治体をはじめ様々な関係者とネットワーク形成
 - ・発生状況・性状に応じ最適なソリューション設計
 - ・選別拠点拡充に積極投資

未利用資源を社会に還元

市場規模

焼却残渣に含まれる金属の価値は
国内だけで1,000億円/年以上

生産フローの最適化

既存のフロー



自治体、民間のリサイクル施設での事故等の社会課題を解決すること、
枯渇が懸念される金属等を回収し循環させることでCEをリードする

国内のLIBに係る状況

小型LIB（民生品用途が主）



LIBを搭載した製品の普及が急速に進み、廃棄物処理の過程における発熱・発火を原因とした火災事故が急増

回収スキームの未整備や、電池処理施設の不足が課題

指定再資源化製品の拡大により小型LIBの回収量増加を想定

大型LIB（自動車・ESS*用）



ESS用の需要は急拡大しているものの、自動車向けをはじめ、国内電池製造工場の工程廃材市場については足元で成長鈍化

市場全体としては揺るぎない成長を続けると認識

今後のアクションプラン

大型LIBへの取り組みを継続しながら、小型LIBへの取り組みを強化

- 排出事業者（自治体・法人）・同業者等と安心、安全なリサイクルの仕組みを共創のアプローチで構築する
- 指定再資源化製品の対象拡大（2026年4月改正資源法施行見込み）や小型家電リサイクル法の見直しに伴い、グループ内外の連携により回収ネットワークを拡大し、再資源化ニーズを取り込む
- 高品位、高効率なブラックマス製造技術研究を進め、既存の工場の製品品質・生産性を高めると同時に新規拠点展開を進める

* ESS : エネルギー貯蔵システム。電力を貯蔵し、必要な時に取り出して使用するための装置を指す

技術進化に合わせ3つのアプローチを組み合わせポリマー資源循環を促進することでCEをリードする

サーマルリカバリー

低炭素燃料事業の強化

- RPF*製造ライン設置で徐々に量産化が進行
2025年8月稼働開始（静岡県富士市）
- TDF*の輸入販売を拡大
石炭代替の低炭素燃料の供給強化



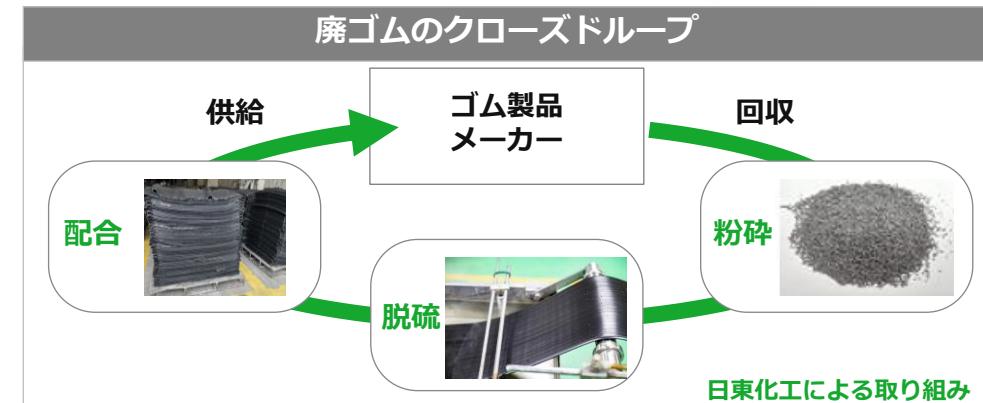
←エコネコル富士RPF新工場
(2025年8月18日稼働開始)
↓RPF



マテリアルリサイクル

ゴムの再生素材と廃プラの供給

- 製品製造プロセスで発生する廃ゴムのクローズドループ構築進行
マテリアルリサイクル案件が実現し、案件数の拡大へ向け取り組み中
- 再生プラスチックメーカーへ廃プラスチックの供給



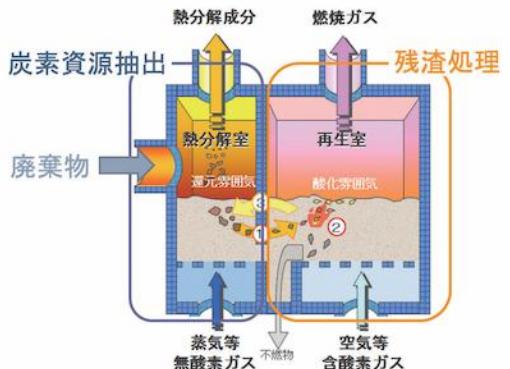
ケミカルリサイクル

荏原環境プラント株式会社の実証事業において原料調達管理を担当

- 社会実装に向けた取り組みの一環として、ケミカルリサイクル実証事業に対し原料の廃プラスチック類を提供
様々な廃プラスチックを用いた試験研究が進行中

ケミカルリサイクル 実証プラント

ICFG®
※
内部循環流動床ガス化システム
※荏原環境プラント(株)の日本における商標登録です。



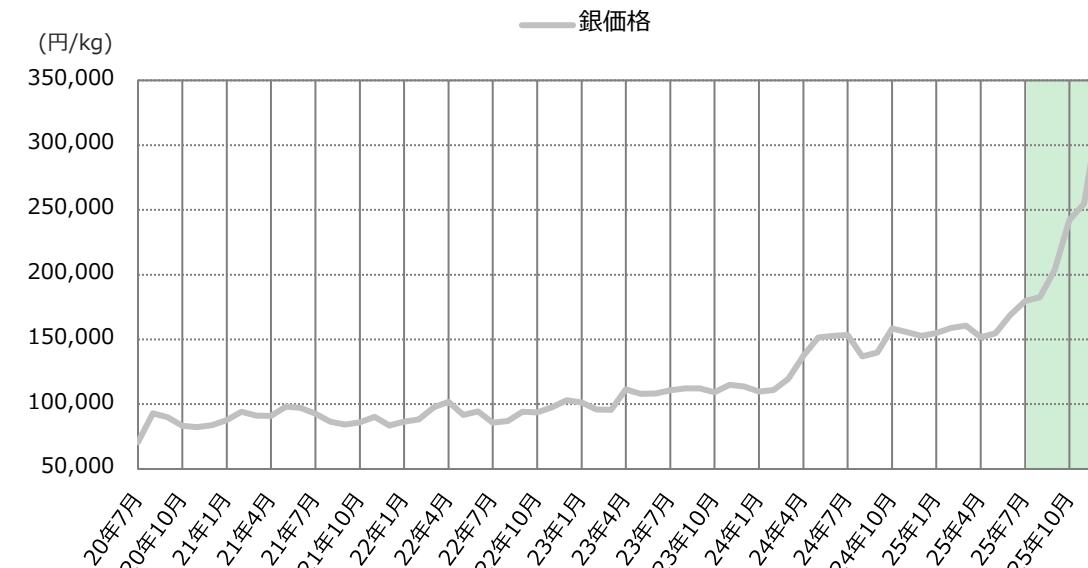
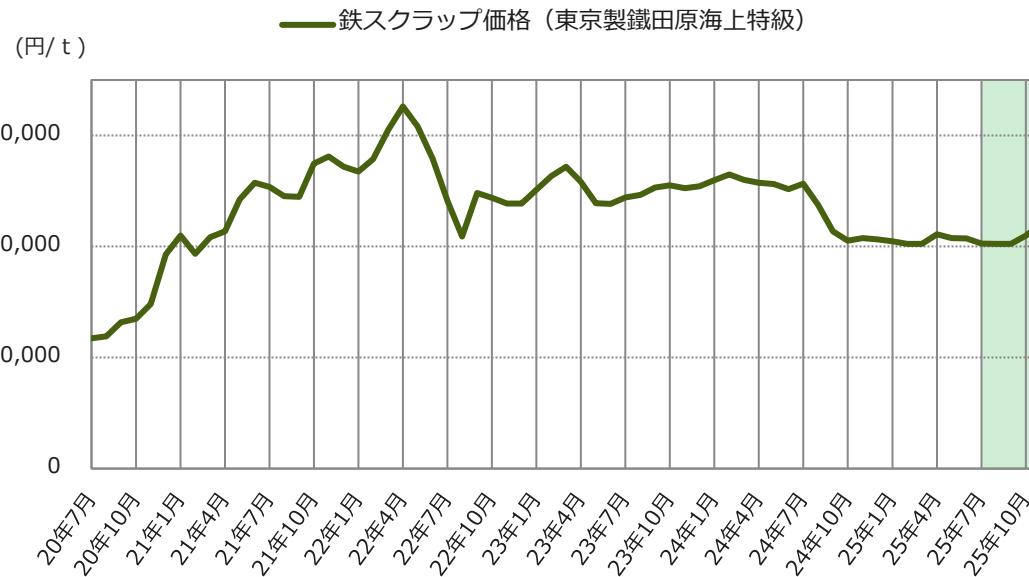
*RPF: 廃プラスチック類と紙ごみ類を主原料に圧縮してつくる、CO₂排出量を削減できる環境配慮型燃料

*TDF: 使用済みタイヤを破碎しチップ状にしたタイヤ由来の環境配慮型燃料

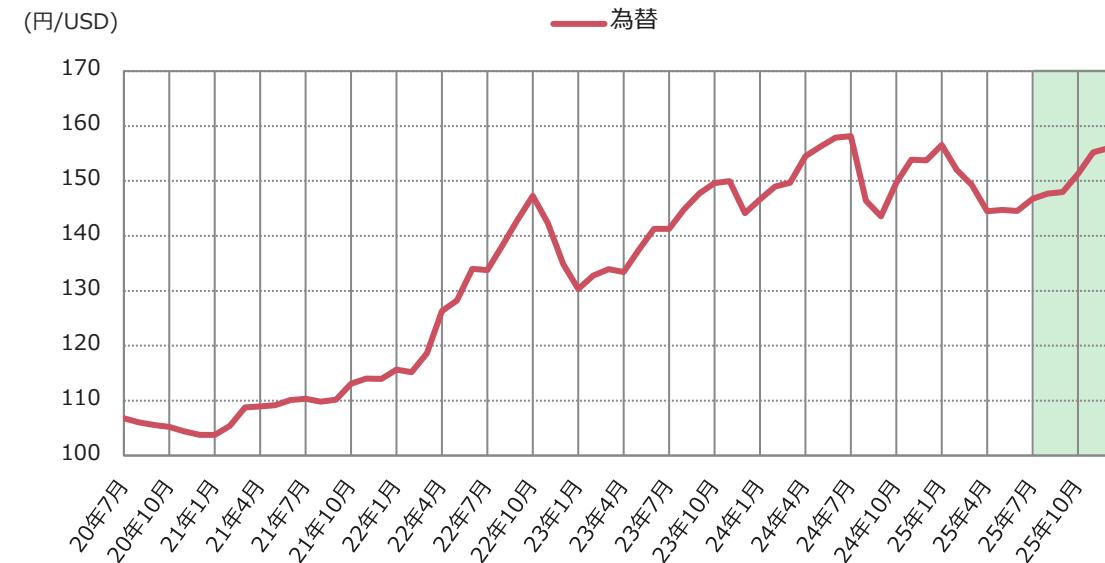
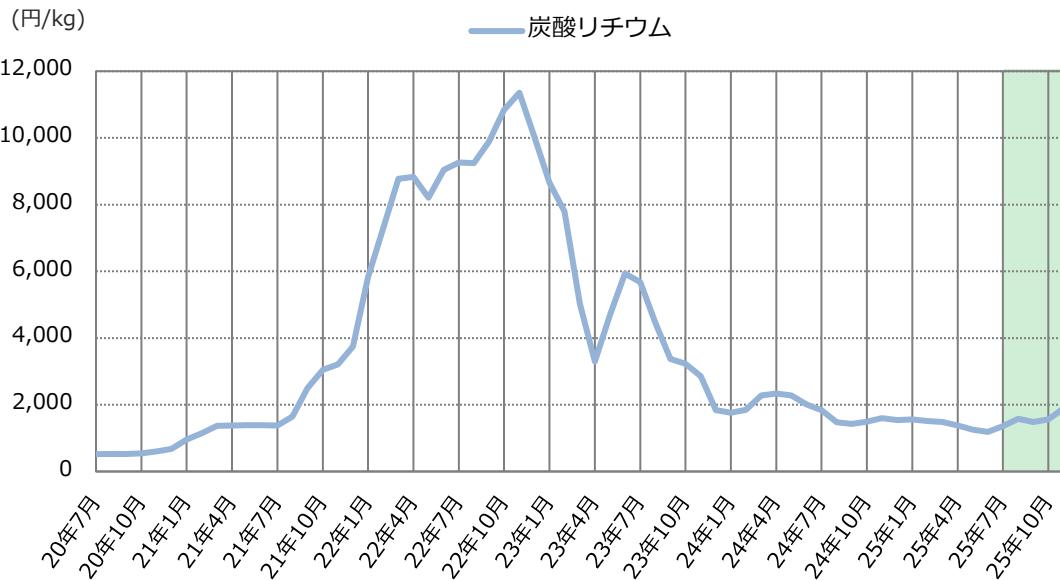
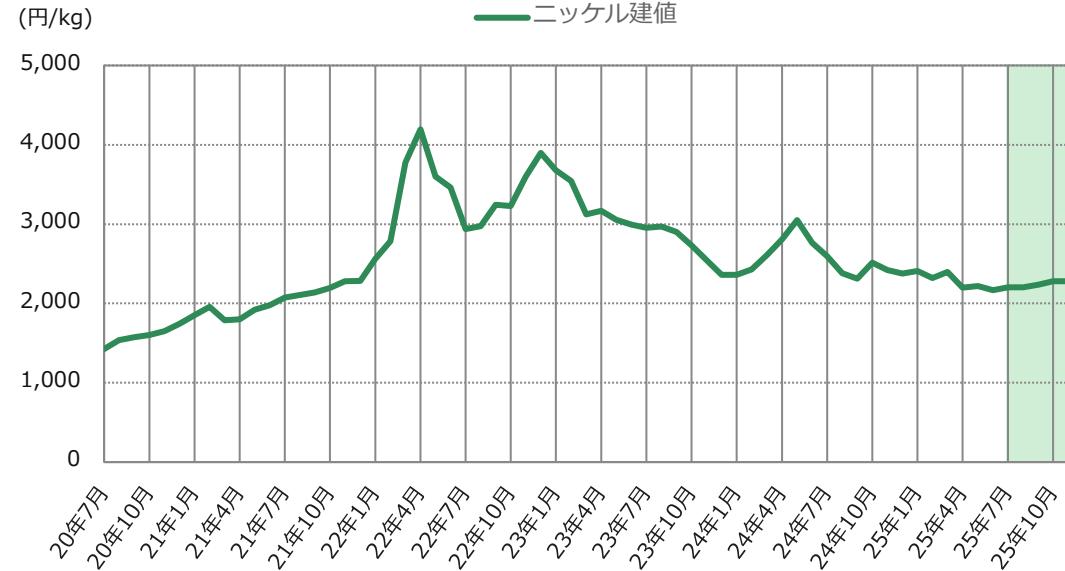
目次

1. 2026年6月期 第2四半期決算概要
2. 2026年6月期 見通し
3. 今後の主な取り組み
4. 参考資料

参考資料 ▶ 相場推移



参考資料 ▶ 相場推移



(出所) IRUniverse(株)、(株)三菱UFJ銀行

本資料に関する注意事項

本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社エンビプロ・ホールディングスの現状を理解していただくために作成したものです。

本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。



本資料及びIRに関するお問い合わせ先

株式会社エンビプロ・ホールディングス
経営管理部

TEL (0544) 21-3160

URL <https://www.envipro.jp/>